

貨幣と金融

貨幣は、信用経済の要となる金融資産である。

I. 貨幣の機能

A. 貨幣の定義

1. 本質的な機能

a. 計算の単位：合理的経済行為が可能となる条件。

(1) 交換の条件の確定

(2) 債権債務関係の確定

b. 債務の決済（支払手段）

(1) 交換に基づく支払の義務

(2) 交換に基づかない支払の義務（納税の義務など）

c. 交換の媒体（交換手段）

(1) たがいに必要なものが一致する交換の相手を見つけるのは困難である。

(2) 交換の必要な時期が一致しない場合もある。

俗には、交換手段、価値尺度、価値貯蔵が貨幣の本質的な三つの機能であるといわれている。このような理解は適切ではない。「価値尺度」は、経済価値に関して、例えば長さや質量のように、絶対的な測定単位があるかのようにも解釈でき、意味があいまいである。価値の貯蔵は、貨幣の本質的な機能から派生する機能である。現代においては、交換手段としての機能も、派生的な機能と見ることができる。

2. 貨幣の多様性

a. 貨幣は経済によって異なる。

b. 歴史上さまざまな例がある。

(1) 交換手段と支払手段とが一致しない例

(2) 異なる交換に、異なるものが交換手段として使われる例

B. 貨幣経済における貨幣の役割

1. 貨幣経済の特徴

a. 支出が所得を超えても取引ができる仕組みがある：貸借と金融商品

b. 金融市場で、金融商品の売買、資産変換が行われる。

金融商品 債権債務関係の諸条件を明記した証書

資産変換 銀行が、一般の借手の債務証書（本源的証券）例えば社債等を取得し、代わりに銀行の債務証書（間接証券）例えば預金証書を発行すること。貸手は、間接証券を媒介として借手に資金を供給することになる（間接金融）。銀行を仲介者としているので、本源的証券による資金供給（直接金融）よりも、一般に安全である。

2. 貨幣の役割

a. 財および用役と異なり、それ自体を直接に、生産または消費に使えない。

b. 債務を解消する手段として、貸借をとまなう取引の基礎となる。

債務を解消する手段がなければ、貸借をとまなう取引の行われる範囲は狭まる。

II. 貨幣供給の仕組

A. 貨幣供給量

1. 現金通貨（銀行の保有分を除く）と預金通貨の和を貨幣供給量という。
 - a. 現金通貨とは、中央銀行券と鑄貨のことである。
 - b. 預金通貨とは、要求払預金のことである。
 - (1) 預金通貨は、商業銀行の負債である。
 - (2) 要求次第、直ちに現金化される。
2. 中央銀行券は、中央銀行の負債である。
 - a. 現在の制度では、本位貨幣（実物としての価値と額面価値とが等しい貨幣）は存在せず、貨幣は、貴金属等と完全に切り離されている（管理通貨制度）
 - b. 中央銀行券は、他の経済主体の負債を中央銀行が引き受けることから発生する。

日本銀行の資産負債残高表（1996 年 12 月 31 日， 単位：兆円）

資 産	金 額	負 債	金 額
政府負債	45.1	日銀預け金	3.5
民間負債	8.5	現金通貨	54.6
対外債権	2.9	政府預金	0.1
その他	4.4	差 額	2.8
合 計	60.9	合 計	60.9

『日本銀行月報』1997 年 7 月号「平成 8 年の資金循環」から作成

- (1) 日本銀行券発行高と同額以上の発行保証物件保有の必要（発行保証制度）：地金銀，手形，貸付金，国債その他の債券，外貨資産等
- (2) 実際には，大部分が政府負債（政府短期証券：19.0，国債：26.1）である。
3. 通貨の定義によって，さまざまな貨幣流通量の概念がある。
 - a. M_1 ：現金と要求払預金（銀行，信用金庫，農林中央金庫，商工組合中央金庫）
 - b. M_2 ：準通貨（定期性預金）を含む。 $M_2 + CD$ ：譲渡性預金を加える。
 - c. M_3 ：上記以外の金融機関を含む。

B. 信用創造

1. 信用創造の波及過程
 - a. 銀行外へ現金の流出がない場合

$$D = H + (1 - r)H + (1 - r)^2H + \dots = \frac{1}{r}H$$

D : 預金通貨， H : 現金通貨， r : 支払準備率

- (1) 要求払預金は，通常，全額が一度の現金化されることはない。
- (2) 支払準備は，経営上の必要と，金融市場の制度規制によって定まる。
準備預金制度：要求払預金の一定割合を中央銀行に預金することを商業銀行に義務づける制度。

b. 銀行外へ現金の流出がある場合

$$D = (1 - h)H + (1 - r)(1 - h)^2H + (1 - r)^2(1 - h)^3H + \dots = \frac{1 - h}{r + h - rh}H$$

$$H_p = hH + (1 - r)(1 - h)hH + (1 - r)^2(1 - h)^2hH + \dots = \frac{h}{r + h - rh}H$$

$$M = D + H_p = \frac{1}{r + h - rh}H$$

M : 貨幣流通量, H_p : 銀行から流出した現金通貨, h : 流出の割合

2. 均衡条件

$$H = H_b + H_p, \quad H_b: \text{銀行に留まる現金通貨}$$

$$D = (1 - h)M, \quad H_p = hM$$

$$H_b = rD$$

$$H = [(1 - h)r + h]M$$

日本の通貨供給の構造 (1996年12月31日, 単位: 兆円)

	金融機関		公団, 地方公共団体 保有額	法人企業 保有額	個人 保有額
	資 産	負 債			
日銀預け金	3.5				
現金通貨	7.3			4.6	42.6
要求払預金		158.5	3.6	61.0	93.9
定期性預金		676.9	23.3	102.6	551.0
譲渡性預金		14.3	0.8	13.4	0.1

定期性預金のうち, 郵便貯金 223.1 兆円

『日本銀行月報』1997年7月号「平成8年の資金循環」から作成

参考文献

日本銀行金融研究所 (1995) 『新版 わが国の金融制度』

『日本銀行月報』1997年7月号

黒正巖, 青山秀夫訳 (1954) 『マックス・ウェーバー 一般社会経済史要論』東京: 岩波書店. 上巻, 緒論, 第1節および下巻, 第3章第6節, A

John M. Keynes (1930) *A Treatise on Money 1: The Pure Theory of Money*. London: Macmillan. Chapter 1. (小泉明, 長沢惟恭訳 『貨幣論 I』東京: 東洋経済新報社, 1979)

Dennis Robertson (1948) *Money*. 4th edition. Digswell Place: Nisbet. Chapter 1. (安井琢磨, 熊谷尚夫訳 『貨幣』東京: 岩波書店, 1956)

Albert G. Hart, Peter B. Kenen and Alan D. Entine (1969) *Money, Debt and Economic Activity*. 4th edition. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice-Hall.